

本稿では、渋谷町水道の配水塔について、渋谷町水道に関する研究でこれまで知られてこなかった保管史料を用いて、配水塔の設計プロセスを対象に考察します。その上で、近代東京の上水道の供給するために建設された配水塔の役割を明らかにします。渋谷町水道は東京の旧渋谷町に上水を供給するために設立されました。このプロジェクトは 1923 年に完成し、多摩川から約 9km 離れた新町に 2 基の配水塔が鉄筋コンクリートで造られました。

2 基の配水塔は同じ形状で、円筒状の水槽の外周には 12 本のピラスターがあり、ピラスターの上部はコーニスでつながれ、コーニスの上にはパラペットが立ち上がり、頂部には照明が取り付けられています。大切に保存されてきた配水塔は、歴史的価値が認められ土木学会選奨土木遺産リスト記載されており、多くの人々に広く知られています。

しかしながら、配水塔の設計プロセスはこれまで知られてきませんでした。そこで、筆者は東京都公文書館に保管されている設計図面と構造計算書に基づき、設計プロセスの詳細な分析を行いました。その結果、基本設計のデザインは、水槽の上部と下部にバンドが巻かれている以外、目立たないデザインであることが分かりました。

配水塔が、このようなシンプルなデザインから多くの人々を魅了するものに変化したのは、不思議な感じがします。その理由は、将来の目標として東京全域に上水を供給するために、東京西部の上水道供給地域の人々に、渋谷町水道の成功を知ってもらいたかったからです。